

学術論文

# 保育者を目指す学生による保育所・ 幼稚園の制服についてのイメージと保育との繋がり

安田 華子

Connection of an Image and the Childcare about the Uniform of a Nursery School,  
the Kindergarten by the Student to be a Childminder

YASUDA Hanako

## 1. 緒言

保育所や幼稚園等に登降園する園児や、園庭で遊ぶ園児、散歩に出かける園児を見ると、ほとんどの園では制服やスモック等を着用していることがわかる。しかし、制服の役割や必要性等を示す内容を扱う授業は存在せず、制服を着用する必要性や役割がわからないまま就職し、制服と園児の関係に向き合うこととなる。保育者を目指す学生が園児と制服に関わる環境としては、教育実習と保育実習の期間のみになる。実習中に、園児の制服着脱や片付け等の見守りや援助を行うこともあるが、実習の目的には制服に関する記述はされていない。そのため、制服に着目する学生は少なく、着目をしたとしても着脱方法や制服の片づけの援助方法が中心であり、制服の必要性や役割までは考察できていないと考える。

学生自身も幼児期、保育所・幼稚園等に通う際に制服を着用していることと、園に通う子どもたちが制服を着用することが社会的にも当たり前になっていることから、制服の必要性を考えることがないのが現状である。そこで、質問紙を使用し調査・分析を行い、学生がもつ保育所・幼稚園の制服の必要性やイメージが、保育とどのような繋がりを持つのか考察した。

## 2. 調査方法

質問紙を配布し、個別に回収を行った。質問用紙は、学生の制服に対するイメージを知るため、質問ごとに自由記述形式（複数回答可）で行った。また、学生自身が保育所等に通い制服を着用し、保育・教育を受けていたかを基本情報として質問紙に加えた。

## 3. 調査対象

A 短期大学にて保育者を目指す学生。2年課程1年生24名、3年課程1年生43名、2年課程2年生17名、3年課程2年生18名の合計102名の学生より回答を得た。

#### 4. 調査時期

2年課程1年生24名、3年課程1年生43名、合計67名については、新型コロナウイルスにてA短期大学のある県にも、緊急事態宣言により入学後から2か月間非対面での課題学修を行った。その際、制服に対するイメージを授業課題の一環として行った。そのため、2年課程1年生、3年課程1年生ともに保育・教育について短大では学んでいない状態での実施となった。

2年課程2年生、3年課程2年生は8月中旬の授業（前期科目終了時期）にて質問紙を配布し、個別に回収を行った。回収は2年課程2年生17名、3年課程2年生18名であった。2年課程2年生、3年課程2年生の大きな違いとして、2年課程2年生は附属幼稚園実習（5日間）、保育園実習（10日間）を終え、それに伴う実習指導を受講している。それに対し3年課程2年生は、授業にて附属幼稚園半日見学、保育園見学実習に数回訪れてはいるが、実習生として子どもとかわる経験はしていない。しかし、11月に附属幼稚園実習（5日間）に参加するため、それに伴う実習指導を受講している段階である。

#### 5. 調査内容

以下の項目について自由記述で回答を求めた。

- ①保育所・幼稚園のどちらに通っていたか
- ②制服の有無
- ③制服の必要性
- ④制服のメリット
- ⑤制服のデメリット
- ⑥制服ができた理由

#### 6. 分析方法

調査対象者に対して、アンケートを実施後、記述を基に単純集計を行いカテゴリーに分けた。

#### 7. 結果と考察

- ①保育所・幼稚園のどちらに通っていたかの集計として、保育所55名、幼稚園45名、保育所・幼稚園両方2名であった。このことから、回答をした学生のすべてが保育・幼児教育を受けていたことがわかる。
- ②制服の有無では、制服あり63名、制服なし25名、その他14名であった。その他と回答した学生の中には、スモックのみあったと回答したのは11名であった。このことから、学生自身が幼児教育を受けるとともに、制服やスモック、体操服など保育所・幼稚園などの規定の服装を着用していたことが読み取れる。
- ③制服の必要性については、KJ法を使用しカテゴリー分けを行った。

2年課程1年生、3年課程1年生、2年課程2年生、3年課程2年生が共通しているカテゴリー

として「所属」があげられる。

「所属」では、「どこの園かわかる」、「どこの園の園児かわかる」という項目が上がり、制服を着用することで、どこの園の子どもなのかが一目で判断するために必要とされていると考えていることがわかった。

2年課程1年生、3年課程1年生、3年課程2年生の3グループが共通するカテゴリーとして「仲間意識」「統一性」「いじめ」「切り替え」「犯罪」があげられる。

「仲間・集団意識」では、「仲間意識が生まれる」、「集団の一員ある自覚を促す」といった、子どもに集団生活をしていることを意識する上で必要であると考えていることがわかった。

「統一性」では、子どもたちの服装に統一性があり、制服は正装として使用されていると考えていることがわかった。

表 1 - 1 : 2年課程1年生 必要性カテゴリー分け

カテゴリー	大項目	小項目
所属	園	どこの園かわかる 所属がわかる
	園児	どこの園の園児だとわかる
仲間・集団意識	仲間意識	仲間意識が生まれる
	集団意識	集団の一員である自覚を促す まとめ
統一性	統一性	統一性を持つ 行事にみんな揃って一緒に服が着られる 正装
いじめ	経済状態	経済状態がわからない
	差別	差別を防ぐ
	いじめ	いじめを防ぐ
着脱	着脱	ボタンができたり着替えることができる 制服から遊ぶ服に自ら着替えようとするようになる
切り替え	意識	家とは違うという意識が持てる
犯罪	迷子	迷子になってもすぐにわかる
保護者	朝の支度	服を選ばなくてもよい
その他		品格や立場が分かる

表 1 - 2 : 3 年課程 1 年生 必要性カテゴリー分け

カテゴリー	大項目	小項目
所属	園	どこの園に所属しているかがわかる 周りから園がわかる 園のプライド
	園児	園児かどうか見分けられる 園児だとわかる
仲間意識	意識	帰任感が生まれる 仲間意識を高める 集団としての自覚を持つ 一体感をつくる
統一感	統一	統一感をだす
いじめ	私服	私服でのいじめを避ける
	差別	貧富の差がわからなくなってきました
	寝言	服に関するトラブルが起きない
切り替え	意識	着ることで園へ行くという気持ちの切り替え 公私の切り替えができる
犯罪	迷子	迷子になってもすぐにわかる 事故に巻き込まれてもわかる
その他	安全	安全性が強い

表 1 - 3 : 2 年課程 2 年生 必要性カテゴリー分け

カテゴリー	大項目	小項目
所属	園	園のブランドアピール 園の宣伝 園の目印
	園児	どこの園に所属しているかがわかる
着脱	着脱	着脱を学ぶきっかけになる
調整	体温調整	体温調節をするため
子どもの意識	意識	自覚が持てる
	動き	活動しやすい

表 1 - 4 : 3 年課程 2 年生 必要性カテゴリー分け

カテゴリー	大項目	小項目
所属	園	どこの園かわかる
	園児	どこの園児かわかる 存在意義を示す
仲間意識	集団	集団生活・行動を意識する
統一感	統一	統一感を持てる
いじめ	経済	貧富の差をわからないようにする
着脱	着脱	着脱を練習できる
切り替え	意識	普段と幼稚園のメリハリをつける
犯罪	迷子	迷子になってもすぐにわかる

「いじめ」では、最も多く回答された項目は「経済状況による貧富の差がわからない」という意見であった。その他には「服装に関するトラブルが起きない」という意見もあった。経済状況による貧富の差で考えられることは、今までの経験から服を何着持っているのか、服のブランドによる違い等から経済状況がわかってしまうことが読み取れる。もちろん服に興味がない学生もいると思うが、貧富の差から生じる服装がいじめに発展する経験を過去にしていることが伺える。小学校では、私服通学をしている学校が多いことや、制服があっても休日に遊ぶ時には私服になることから、自他を比べたり他の人の服装を評価したりしていたことが読み取れる。いじめを行う理由はたくさんあり服装だけではないと思うが、何日も同じ服を着てくることがや、よれよれの服を着てくることがいじめの原因の一つであることが考えられる。

「切り替え」では、「制服を着ることで園へ行くという気持ちの切り替えができる」、「普段と幼稚園のメリハリがつく」という回答があった。このことから、制服を着ることで自宅ではなく、集団生活や保育・幼児教育を受けるための気持ちの切り替えになり、子どもの意識も変化するということが読み取れる。そのため、保育所や幼稚園等に通うときには、養育者や家という安全基地から外に出ることで、子どもにとって不安や心配があることが考えられる。筆者が保育所保育士として勤務していたときにも、入園したての子どもは制服を着用することを嫌がり、登園時親子分離ができず泣き叫ぶ園児を何人も見てきた。園児により期間は異なるが、園生活や保育者になれることで少しずつ落ち着き、制服を着用し親子分離がスムーズに行えるようになっていった。園生活に慣れ、制服着用がルールであることを理解することが制服着用には必要であることが考えられる。そして、制服を着用することで、今から園に行くという心構えができるのではないだろうか。いわば制服は子どもにとって戦闘服や勝負服の役割を持つことが考えられる。

「犯罪」では、迷子になったり事故が起こったりした時にすぐわかるというものである。保育・幼児教育中にこのようなことが起こることはあってはいけないが、散歩中や遠足など園外にて保育・幼児教育を行う際に考えられることでもあり、降園後に起こる可能性も考えられることである。そのため、制服を着用していることで保育者や周りの人への目印としての機能を持っていることが読み取れる。

2年課程1年生と2年課程2年生、3年課程2年生が共通するカテゴリーとして「着脱」があった。

「着脱」では、「着脱を学ぶきっかけ」や「ボタンができるようになる」という項目があった。現在の子ども服には、ボタンやチャック、カギホックなど取り入れられていないアイテムが制服には存在していることもあり、毎日制服の着脱衣行為を行うことで身につくことが考えられる。

2年課程2年生の単独カテゴリーは「衣服調整」「子どもの意識」の2つである。

「衣服調整」では、体温調整をするために季節に合わせて合服、夏服、冬服があると同時に上着を脱ぐなどを学ぶことができると考えたことが読み取れる。

「子どもの意識」では、子ども自身が園の一員であるということを自覚することができるという意見が上がった。

④制服のメリットについては、KJ法でカテゴリー分けを行った。

表 2-1: 2年課程1年生 メリットカテゴリー分け

カテゴリー	大項目	小項目
所属	園児だとわかる	園の子どもか区別がつく どこの園児かわかる 園児が一目でわかる
	仲間意識	仲間意識が芽生える 集団の一員だということがわかる みんな同じ服が着れる
統一感	統一感	統一感がある
いじめ	経済	家庭の経済状態がわからない 貧富の差がない
	差別	みんな同じで差がない 平等
切り替え	公私	メリハリがつく
	気持ち	園に行く気になる
	習慣	身だしなみを整える習慣がつく
保護者	朝の支度	服に悩まなくてもいい 服を何着も購入しなくてもよい 毎日私服を着なくてもよい
	洗濯	洗濯ものが減る
	意識	服に気を遣うよりも遊びや勉強に意識が向けられる

表 2-2: 3年課程1年生 メリットカテゴリー分け

カテゴリー	大項目	小項目
所属	園	通っている園がわかる 園独自のもの
	園児	どこの園児かわかる 人数を数えやすい
意識	仲間	仲間意識が芽生える 同じ服を着ているので正しい行動ができる
統一	統一感	統一感がある
いじめ	経済	貧富の差を感じない 経済状況に左右されない 経済的
		差別
	いじめ	いじめ防止
着脱	着脱	着脱が身につく
切り替え	規律	規則を守る習慣がつく
保護者	経済	服を購入しなくてもよい
	朝の支度	服を選ばなくてもよい 時間短縮
	洗濯	私服が汚れない 洗濯が楽になる
	人目	人目を気にしなくてもよい
調整	調節	簡単に温度調節ができる
動作	動き	動きやすい
犯罪	犯罪	迷子を見つけやすい 事故にあった時に役立つ
その他	生地	しっかりしている



表 2-3: 2年課程 2年生 メリットカテゴリー分け

カテゴリー	大項目	小項目
所属	園	園を強調することができる 制服がおしゃれだと園が注目される
	園児	どこの園に通っているのかわかる 自分の園の子どもがわかる よい子のイメージ
意識	仲間意識	仲間意識が芽生える
統一感	統一感	一体感が生まれる
いじめ	差別	服装での差別がなくなる 貧富の差が出ない
着脱	着脱	着脱ができるようになる
	片付け	ハンガーなどかけられるようになる
切り替え	意識	きっちりするときと遊ぶ時のメリハリ 園とプライベートの切り替え
保護者	経済	服をたくさん購入しなくてもよい 私服が汚れない
	朝の支度	服を選ばなくてもよい
その他		華美な服装にならない
		きれいなイメージ

表 2 - 4 : 3 年課程 2 年生 メリットカテゴリー分け

カテゴリー	大項目	小項目
所属	園	どこの園かがわかる
	園児	どこの園の子どもかわかる 他の園の子どもと見分けがつく
いじめ	いじめ	いじめや格差が出ない 平等
	差別	個人差・家庭差がない
着脱	発達	手先の発達につながる
	着脱	自分で着脱できる
親	経済	私服をたくさん買わなくてもよい 式など別の服を用意しなくてもよい
	朝の支度	服を選ばなくてもよい
	洗濯	汚れてもよい
犯罪	犯罪	迷子になった時などすぐに見つかる
個人	性差	女の子はかわいらしさ、男の子はかっこよさがある
		こどもならではのかわいさ 正装 見た目がそろろう 人生の思い出

2年課程1年生、3年課程1年生、2年課程2年生、3年課程2年生で共通していたカテゴリーは「所属」、「いじめ」、「保護者」の3つであった。

「所属」では、「園」と「園児」の項目に分けることができる。

「園」では、「どこの園かわかる」、「園を強調できる」という意見が上がった。このことから、保育者や周りの人に「〇〇園」であるということが一目で見てわかることがメリットになり、制服の役割であることが考えられる。

「園児」では、「園児が一目でわかる」、「人数が数えやすい」、「自分の園の園児と他の園児との見分けがつく」という保育者側の意見と、「どこの園児かわかる」という周りの人から見た意見があった。保育者側の意見では、遠足等に出かけ他の園と合同になった時などに、子どもの安全を守るための目印となる役割を制服が持っていることが考えられる。

「いじめ」では、必要性と同様に「経済状況による貧富の差がない」、「服装でのトラブルが避けられる」という意見に加え、「いじめ防止」、「差別意識をなくす」、「平等」という意見もあった。このことから服装による違いは格差やいじめを生み出す要因の一つであることが考えられる。

「保護者」では、「朝の支度」「洗濯」「経済」の項目に分けることができる。

「朝の支度」では、「毎日服を選ばなくてもよい」、「時間の短縮になる」という意見があった。起床後登園するまでの過程での時間が限られていることと、保護者にとって準備や家事に忙しい時間であることが背景にあると考えられる。

「洗濯」では、「私服が汚れない」、「洗濯物が減る」という意見があがった。制服の上着やスカート、ズボンは毎日着用するため洗濯してもブラウスなど直接肌に触れるものという意識が読み取れる。これは、学生自身が中学や高等学校の制服の洗濯頻度が背景にあると考える。

「経済」では、「私服を何着も購入しなくてもよい」、「貧富の差を感じない」、「式など別の服を購入しなくてもよい」という意見があがった。制服を一式購入することで、私服の購入が減らせると考えられていることがわかる。実際、入園児に大きめの制服を購入し、卒園まで制服を買い替えない保護者もいることから、服の出費は経済的負担になることが伺える。

2年課程1年生、3年課程1年生、2年課程2年生で共通していたカテゴリーは「統一性」、「切り替え」「仲間意識」の3つであった。

「統一性」では、服装が統一されることで「一体感が生まれる」という意見があがった。

「切り替え」では、必要性同様「メリハリがつく」「園に行く気になる」という意見と、「身だしなみを整える習慣がつく」「規則を守る習慣がつく」という意見もあった。園児全員が同じ制服を着用することにより、周りを見て園児一人一人が制服の正しい着こなしを学び、自ら直すことができるようになっていくと考えていることが読み取れる。園生活は集団行動になるため普段よりも身だしなみや、規律を守る機会が増えると考えられる。

「仲間意識」では、必要性同様「仲間意識が生まれる」、「集団の一員である自覚を促す」という意見と「同じ服を着ているので正しい行動ができる」という意見があった。これは、保育

所・幼稚園教育が集団生活であることと、一斉保育を行っている園が多いことが背景にあると考えられる。

2年課程1年生、2年課程2年生、3年課程2年生で共通していたカテゴリーは「着脱」であり、「着脱が身につく」「手先の発達につながる」「ハンガーなどかけられるようになる」という意見があった。毎日の制服着脱により、着脱の方法がわかり実際に自分で行うことで指を使い、より細かい動作へつなげていけることが考えられる。また、園によっては制服を脱いだ後の片づけの方法にハンガーを使用している場合もあり、ハンガーの使用方法や畳方を着脱の流れで園児に伝えていることが考えられる。

3年課程1年生、3年課程2年生で共通していたカテゴリーは「犯罪」であった。

「犯罪」では、必要性と同様「迷子を見つけやすい」「事故にあったときに役立つ」という意見があった。

その他にも、「生地がしっかりしている」、「華美な服装にならない」、「子どもならではの可愛さ」「人生の思い出」という項目もあった。

⑤制服のデメリットについては、KJ法でカテゴリー分けを行った。

2年課程1年生、3年課程1年生、2年課程2年生、3年課程2年生で共通していたカテゴリーは「所属」、「保護者」、「個人」であった。

「所属」では「園」、「園児」の項目に分けられる。

「園」では、「部外者からも通う園がわかってしまう」というものであった。一目見てどの園かわかることは、メリットでも取り上げられていたが、反対にデメリットにもなることがわかった。

「園児」では、「身元がわかってしまう」、「みんな同じ制服で個人が見つけにくい」「個人情報漏れやすい」というものであった。同じ制服で帽子をかぶり顔が見えない状態を考えると、個人の判別がつきにくく、園児を探すのに手間取ることが考えられる。また、園児の名前を呼ぶことで、第3者に〇〇園の誰々という情報を知らせてしまうことにもつながる。

「保護者」では、「洗濯」、「経済」、「管理」の項目に分けられる。

「洗濯」では、「家での洗濯が難しい」というものであった。生地にもよると思うが、毎日洗濯をしようと思うと手間がかかったり乾かなかったりなどの問題点が考えられる。

「経済」では、「一式を揃えるのにお金がかかる」「着替えが必要」「サイズの買い替えが必要」という意見があった。制服を一式そろえるために、原田ら(1996)<sup>1)</sup>の調査では、保育所・幼稚園でのスモック以外での制服を採用している園での服種を一通り揃えた時の平均合計として13,000円という金額が提示されている。このことから、制服を一式購入し、洗い替えやサイズの買い替えを行うことを考えると、かなり高価な買い物となることがわかる。例えば大きめの制服を購入したとしても、個人差はあるが乳幼児期の成長は早く再購入は避けられないと考える。卒業園児に制服をもらうとしても数に制限があり、すべての園児を網羅することは難しい。

「管理」では、「手入れやアイロンがけが大変」という意見があった。制服のスカートにはプ

表3-1: 2年課程1年生 デメリットカテゴリー分け

カテゴリー	大項目	小項目
所属	園	所属集団がわかる 部外者からも通う園がわかってしまう
	園児	身元が分かってしまう みんな同じ制服で個人を見つけにくい
	卒園後	卒園後は着ることができない
着脱	着脱	着脱が面倒 着脱に時間がかかる
保護者	洗濯	家での洗濯がむずかしい 洗濯が大変 毎日洗濯をしないといけない
	経済	一式を揃えるのにお金がかかる サイズにより買い替えが必要になる
温度調整	温度調整	気温での服の調整がしにくい 体調に合わせて服を調整できない
その他	衛生面	毎日同じ制服で衛生的によくない
個人	個性	好きな服を着ることができない 個性がない 自由がない
	反発	みんな同じで嫌 縛られている感じがする 着たくない子どもがいる 窮屈

表 3-2: 3年課程 1年生 デメリットカテゴリー分け

カテゴリー	大項目	小項目
所属	園児	どこの園に通っているかわかる
性差	性差	性差別につながる 性に悩みのある子どもに対応できない
保護者	洗濯	洗濯ができない
	経済	お金がかかる 着替えが必要
		卒園したら着れない
	買い替え	転園する場合買い替えないといけない
調整	調整	体温調整がしにくい
	間違え	同じものなのでしるしをつけないと間違えてしまう
個人	個性	個性が出ない 好きな服が着れない
衛生	衛生	洗えず衛生的によくない
犯罪	誘拐	誘拐されやすい

表 3-3: 2年課程 2年生 デメリットカテゴリー分け

カテゴリー	大項目	小項目
所属	園	どこに通っているかがわかる
	園児	子どもの区別がつきにくい
性差	性差	性の強要
保護者	管理	お手入れが大変 アイロンがけが大変
	洗濯	洗濯が大変
個人	個性	個性が出せない 好きな服が着れない
動作	動き	動きにくい
調整	調整	着ていると暑い

表3-4: 3年課程2年生 デメリットカテゴリー分け

カテゴリー	大項目	小項目
所属	園	どこの園かわかる 身元がわかる
	園児	個人情報が漏れやすい
保護者	経済	制服代が高い 着替えが必要
	洗濯	洗濯が大変
着脱	着脱	着脱に時間がかかる
調整	調整	季節に合わせて好きなように合わせられない
生地	生地	暑い
動作	動き	動きにくい
個人	個性	個性がない 着ていきたいという主張が失われる

リーツが採用されているものもあり、形を整えることが難しいように感じる。また、使わない時期の保管についても、しわや跡がつかないようにする必要がある。

「個人」では、「個性がない」「好きな服が着られない」「縛られている感じがする」「窮屈」という意見があがった。統一された制服を着用することで、アレンジや好きな服装ができないというものである。幼児期になると私服を自分でコーディネートすることも増えていくが、制服に関してどこまで自分らしさを出したいと考えているのか、制服着用が窮屈と感じているかは、この調査ではわからない。しかし、学生からこの意見が出たことは、学生自身が中学校、高等学校で制服を着用しているときに抱いた感情だと考えられる。

2年課程1年生、3年課程1年生、3年課程2年生で共通していたカテゴリーは「温度調節」であり、「体温調節がしにくい」、「気温での服の調整がしにくい」という意見があった、制服の服種が限られていることから、寒暖の差に対応しにくいことがわかる。

2年課程1年生、3年課程2年生で共通していたカテゴリーは「着脱」であり、「着脱に時間がかかる」というものであった。ファスナーやボタン、スカートにたすきが使用されている制服もあるため、ある程度の時間を着脱に有することが背景にあると考えられる。年齢が高くなるにつれ、自分でやりたいという子どもの自我も芽生えるため、保護者や保育者が見守る部分が増えていくことも要因として考えられる。

2年課程1年生、3年課程1年生で共通したカテゴリーは「衛生」であり、「同じ制服で衛生

的によくない」というものであった。これは、カテゴリー「保護者」にも共通するものであるが、洗濯を毎日行うことが難しいため、ある程度の期間（1週間）同じ制服を着ることになる背景があると考えられる。夏服などは、汗をかくことが考えられるため、生地が薄くなっており洗いやすいものになっているが、冬服は生地が厚く洗濯するには手間がかかる制服も多いと考えられる。

3年課程1年生、2年課程2年生で共通したカテゴリーは「性差」である。「性に悩みのある子どもに対応できない」「性の強要」という意見があった。現在は性同一性障がいに関する情報や知識が増えてきていることが関係していると考えられる。しかし、乳幼児期の子どもがどこまで自分の性同一性障がいを理解し、服装に反映させているのかについては、この調査では見いだすことはできない。しかし、中学校、高等学校に通う学生の中には、男女別の制服に疑問や抵抗を感じている学生がいてもおかしくはない。

その他にも「誘拐されやすい」という意見があった。制服でどこに通っているのかがわかり、保育者や保護者が子どもの名前を呼ぶことで、ターゲットを限定でき犯罪に巻き込まれる危険性があることがわかる。筆者が保育所保育士として勤務しているときにも、お迎えの人物が連絡なしに変更され確認をとると「絶対に引き渡さないでほしい」と保護者が急いでお迎えに来ることが何度かあった。家庭内の事情により安易に子どもを受け渡すことにより、犯罪に繋がってしまうケースは十分にあると考えられる。

⑥制服ができた理由については、KJ法でカテゴリー分けを行った。

2年課程1年生、3年課程1年生、2年課程2年生、3年課程2年生に共通するカテゴリーは「所属」「仲間意識」「統一性」であった。

「所属」では、「園」「園児」の項目に分けられ、「園をアピールする」、「象徴」といった意見が多く上がった。園児では、「自分の園の園児と他の園の園児を区別する」という意見があった。このことから、制服は、園独自で工夫され一目でどこの園、園児かがわかるようにすることで、周りに園を知ってもらうことや、見守ってもらうことを前提に作られていると考えている学生が多いことがわかった。

「仲間意識」では、仲間であるという「共通認識」や「集団意識」を高める、「社会性を身につける」という意見があった。同じ服装をすることで、園児が他の園児と同じように集団生活を送りやすくなり、一緒に遊んだり製作をしたり身体表現を通して協力し、仲間意識が生まれてくることが考えられる。言葉で園児に伝えるよりも、制服の着用でみんな同じという安心から自然と身についていくと考える。

「統一性」では、統一感から「連帯感や一体感を感じることにつながる」という意見があった。毎日同じ保育者とクラスの仲間と集団生活をする中で、徐々に生まれてくる感情であると考えられる。

2年課程1年生、3年課程1年生、2年課程2年生で共通するカテゴリーは「切り替え」であった。制服を着用することで、子どもがプライベートと園生活の気持ちを切り替えるスイッチと



して考えられていることがわかる。大人も場所に合った服装を着用することで気持ちや心持を変化させることがあるため、子どもにも同じ効果があると考えられる。

2年課程1年生、3年課程1年生に共通するカテゴリーは「いじめ」「保護者」であった。

「いじめ」では、「経済状況や貧富の差がない」と同時に、「外見的な差別がなくなる」という意見があった。近年子どもの貧困をめぐる問題がクローズアップされていることから、学生が経済状況や貧富の差についての意識が高いように感じる。みんな同じ服であれば、外見から経済的なことは分からないし、服装でのトラブルは防げることも考えられる。

「保護者」では、「朝の支度」「経済」以外に「保護者の要望」という意見があがった。武石(2002)<sup>2)</sup>では「明治34年に園児にエプロンをつけることが提案されたが、実際にエプロンをつけさせたのはお茶の水幼稚園主事の安井哲女史で、明治43年、44年であったと考えられる」としている。東京女子師範学校附属幼稚園の恩物での保育から戸外で活発に遊ばせる保育に変化し、

表4-1: 2年課程1年生 制服ができた理由カテゴリー分け

カテゴリー	大項目	小項目
所属	園	園をアピールする 園のシンボル どこの園かわかる 愛園心を持つ
	園児	園児だとわかる 何者であるかがわかる 服装に乱れがないようにする
仲間意識	集団	集団で生活している意識を持てる 同じグループと認識する
統一感	統一性	統一性を持つ 統制が取りやすい 風紀を整える
	クラス	クラスをまとめやすい
いじめ	経済	経済的格差をなくす
	ケンカ	みんな同じでケンカがなくなる
切り替え	けじめ	けじめを持たせる
保護者	保護者の訴え	保護者の要望

表4-2: 3年課程1年生 制服ができた理由カテゴリ分け

カテゴリ	大項目	小項目
所属	園	園のアピール 所属の区別 どこの園に通っているかわかる 園の個性
	園児	園児だとわかる
仲間意識	統一感	統一感がある 連帯感が強まる 一体感が生まれる
	仲間	仲間意識を持たせる
	所属	集団の一員ということを自覚する 社会性を身につける
いじめ	経済	経済状況をわからなくする
	差別	外見的な差別をなくす
	いじめ	いじめが減る
着脱	練習	着脱の練習
切り替え	切り替え	制服を着ると園に行く気になる
保護者	朝の支度	服を選ばなくてよい
	経済	服代を節約する
個人	性差	男の子はズボン、女の子はスカートという思想
	外見	子どものかわいらしさが倍増する
犯罪	迷子	迷子になっても所属がわかる

表 4 - 3 : 2 年課程 2 年生 制服ができた理由カテゴリ分け

カテゴリー	大項目	小項目
所属	園	所属している場所がわかる 園独自の目印
	園児	園児だとわかる
仲間意識	仲間	仲間であるという共通認識のため
	集団	集団の一員という意識を持つ
統一感	統一感	統一感を持つ
切り替え	意識	プライベートな時間との切り替え
歴史	軍	軍の制服
保育、幼児教育	保育	一斉保育の延長
	意識	規律などルールを守ることのきっかけ

表 4 - 4 : 3 年課程 2 年生 制服ができた理由カテゴリ分け

カテゴリー	大項目	小項目
所属	園	園の象徴 どの園か見て判断する
	園児	園児だとわかる 他の園児と区別する
仲間意識	意識	集団意識を自覚させる 一体感をつくり出す 仲間意識を高める
統一感	統一	統一感を出すため 一斉保育のように服も統一する
歴史	時代	時代とともに生まれた 着物は大変だった。

服が汚れないように考案されたと考える。この歴史から見ると、制服ができた理由は保護者からではないことがわかる。しかし、筆者がある保育所園長と制服の調査でインタビューをしていた際、園長先生が保護者会役員に「長い時間、園にいる子どもが多くなったので私服を取り入れてはどうか」と提案をしたところ、「制服購入時にお金の負担はあるものの、あとは要らないし、考えなくてもいいので制服があったほうが良い」との意見が多く出た<sup>3)</sup>との話を伺った。このことから、保護者が制服を使用することに納得していることが伺える。

## 8. 終わりに

本研究では、制服に関するイメージを大きな枠のみを指定し自由記述での回答を行ったため、それぞれの学年での差を見いだすことができなかった。しかし、メリットとデメリットでは項目や意見が重複していたことから、制服のメリット、デメリットは表裏一体であり、着用時には、十分な配慮を行う必要があると考える。

意見の内容は、全体的に客観的に見た大人目線の回答が多く、園児目線での回答は「着脱」に関するものだけであった。大人目線の回答が多かった理由として、学生が中学校、高等学校など自分の直近の経験をもとに回答をしていること、普段から遠巻きに見ている園児たちの様子からイメージをしているためだと考えられる。この調査からは、制服を必要としているのは保育者や保護者であり、園児はただ着させられているという印象を受けた。また、近年「子どもの貧困」や「いじめ」に関してのニュースや情報が多く取り上げられていることから、学生の意識の中に刷り込まれており回答に上がったことが推察される。貧困やいじめに関する政策や電話窓口、学校教育での取り組みを行ってはいるが、すべてが解決されているわけではなく、今も多くの人が苦しい思いをしていることが現状である。保育所・幼稚園では、制服があるから関係ないという気持ちを保育者が持ち保育、幼児教育をすることは大変危険であると考え。そのためにも、保育、幼児教育の中にも、服装の自由や自分の言動が他人にどのような影響を与えるのかを考えられる機会を作っていくことが必要だと考える。それを保育内容に取り入れていくために、私たち保育者も自身の価値観や考え方をしっかり確かめながら子どもに向き合っていく必要がある。

今後は、学生から得られたカテゴリーを基に大人目線ではなく、子ども目線で考え園児に与える影響をしっかりと見だしていく必要がある。そのうえで、どのように保育、幼児教育に取り入れていけるかを考察し、園児に対する援助方法を具体的にしていかなければいけない。

これらのことから、制服の意義や必要性をしっかりと踏まえ、園児の着脱衣動作をどのように指導していくのか、園児の成長過程を見きわめどのような援助が必要になるのかを具体的にすることで、制服を着用する意味を園児に伝えられると考える。制服は着脱衣動作だけではなく、貧困やいじめなどの道徳教育にもつながると考える。更なる研究の歩を進める。

## 参考文献

---

- 1) 原田妙子・長谷川紀子 幼稚園・保育園における制服の現状, 名古屋女子大学紀要, 42, 21~32, 1996
- 2) 武石仁美 幼稚園児の制服の変遷に関する研究: 幼稚園児のエプロンとの起原と復元, 東京家政大学博物館紀要, 7, 23~30, 2002
- 3) 安田華子 幼稚園・保育所における着脱と服装, 名古屋女子大学紀要 人文・社会編, 66, 317~326, 2020